

「蓮如上人と紀州」

金龍 静 完

真宗史では、ここ十
年ほど、法物類の研究
が急速に進展している。
その結果、新たな課題
も浮かんできている。
例えば美濃の場合、蓮
如上人の時期の絵像本
尊は四十数点、実如上
人期のそれは百二十数
点を数えている。紀州

戦国期の史料調査が急務

は、信長軍の現地掃討
がなかつた分だけ、史料
の残存率が高いはず
である。でもおそらく
は、美濃ほどの数値には
は達しないだろう。

しかし、信長軍との
合戦、それを可能なら
十一時間にわたる石山

しめたのが、雑賀衆を代表とする
紀州一向宗だったのは、まず疑い
えない。すると、そこから設定可
能な課題は、証如上人期に教線が
急速に伸びていった可能性がある
か否かの検討である。

最近の課題では、絹目（手織り
か機械織りか）チェックとか、紋
様や像高（身高）の比較検討によ
り、絵像本尊の大まかな区分けが
可能となってきた。

また、六字名号に関しても、戦
国期四代のどの宗主の筆になるの
か、判然としてきた。四代の宗主
ごとの花押の編年表も完成間近に
きている。四代の各宗主の名号お
よび証判御文章の残存数値と比率
はどうなのか、これまた大きな課

戦国期の史料調査が急務



“絵像本尊” 和歌山西組覚圓寺蔵
※下写真は絹目接写。



発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 佐々木孝昭

名号の課題に、興正寺歴代門主
筆の名号の分離・抽出がある。困
難な課題だが、本願寺歴代宗主筆
と異なる名号を集積・分類するこ
とが第一歩となる。他地域と違い、
紀州は絶好のフィールドだからで
ある。

由緒書・縁起類も無視してはな
らない。今年三月に正光寺（下津
町）にある神社縁起を見せていた
だいた。それには、近世の京都吉
田社が日光・月光菩薩を取り込
んでいる様が記されていた。イエズ
ス会の報告書には、両菩薩は一向
宗の菩薩、と紹介されている。宣
教師の記した一向宗が、荒木・仏
光寺系の一向宗ならば、この縁起
は、二菩薩の行く末を考察する上
で重要な情報源となるだろう。

現在、教区では、戦国期の史料
調査が行われつつあると伺った。
調査には、各寺院の積極的な協力
がなければ、不可能である。法物
も由緒書も、ともに貴重な宝。数
百年間、みずから輝き出す時が来
ることをひたすら待ち続けていた
その願いに、私たちは少しでもこ
たえて行かなければならぬと思
われる。

笠間市稻田の付近は、親鸞聖人が四十二歳から六十二歳ころまでの、約二十年間滞在されたところです。ここで『教行信証』という

ところが、西念寺さんは「うちでは、恵信尼さまの報恩講もお勤めしているのですよ」とのことでした。私は驚くと同時に、とても嬉しくなりました。

昨年九月初め、茨城県笠間市稻田の西念寺さんにお伺いいたしました。

『恵信尼さまの報恩講』でお話をさせて頂くためです。「報恩講」といえば「親鸞聖人」というのが常識ですね。



鷺森テレホン 法 話

24時間いつでもどこからでも
3分間法話が聞けます。

(法話は毎月一日・十五日に変わります)

073-422-0243

おにしさん

鷺森テレホン

紙上法語

清水 正宣

(和歌山教区 本願寺布教使)

恵信尼さまのお心に出遇う

大切な書物を書かれました。原稿の完成は聖人五十二歳の時といわれています。

『教行信証』というのは、お馴染みの「正信偈」が載っている本です。全体でおよそ六万八千字の漢文の本です。全部漢文ですから、難しいといえば難しいものです。

ところが、この書物をお書きになっている隣の部屋では、生まれたばかりの末娘・覚信尼さまが「おぎやあおぎやあ」と泣いています。お母さんの恵信尼さまがおしめを代えながら「よしよし」とあやしていらっしゃいます。そのような生活の中から著された書

ところが、この書物をお書きに証』に説かれる教えを少しずつ語られたことでしょう。

その教えは、乾いた土地に沁みます。お母さんの恵信尼さまが、「おぎやあおぎやあ」と泣いています。お母さんの恵信尼さまが、おしめを代えながら「よしよし」とあやしていらっしゃいます。そのような生活の中から著された書

恵信尼さまのお心に届いた阿弥陀如来のお慈悲は、お念佛となつて周りの人びとに届きます。

惠信尼さまの報恩講をお勤めするのと同じように、恵信尼さまの報恩講をお勤めすることによって、お慈悲の教えがいよいよ私たちに身近なものに感じられるのでございます。

そのつもりで、聖人の教えを頂きたいと思うのでござります。

去る、六月二十五日から三回にわたり、教区寺族婦人会連盟基幹運動連続研修会がはじめて企画開催され三十六人が参加した。こうした連続して同一テーマで開催される研修会ははじめてで、参加した寺族婦人は、熱心に講義に耳を傾けた。そこで、同研修会の講義の要点を講師の岩本孝樹師にまとめていただき、二回にわたって掲載することにした。

仏教が如実知見という現実をありのままに見つめることから説かれたように、また法藏菩薩の願いが煩惱具足の凡夫である現実の私たちを目当てにした願いであるよう、同朋運動や門信徒会運動（基幹運動）を推進しようとする時、その出発は現実・事実からではなくてはなりません。それは仏教徒・真宗者の運動であれば当然の事であります。

門信徒会運動は私たちの教団が伝道教団として全員が聞法し全員が伝道するという本来の姿を喪失していた現状から提唱された運動でした。

また、同朋運動も同様です。部落差別をはじめ、諸差別の事実を学び取り組む同朋運動を推進しようとすると「差別の現実から学び出発する」という原則から始まり、決して踏みはずしてはならないことも同様です。それは、生活の場に差別があるのかないのか

いるという現実が見えなくなります。言い換えるなら「女として当然家事をするべきだ」という考え方から出発するなら、（家事を行うことは女性男性という性別には全く関係のないこと）「職業につきたい、働き続けたい」という女性の当然の願いが抑えつけられることが出来ません。

例えば、性差別を学ぶ時「男としての役割が当然あり、女としての役割が当然ある」と考えること

かと頭の中だけで考えたり、差別は気持ちの持ち方しだいではないのかといった視点から始めるのではないかということです。

例えは、性差別を学ぶ時「男としての役割が当然あり、女としての役割が当然ある」と考えること

ことになつていてることに気付くことが出来ません。

「差別の現実から学び、出発する」ということは、こうした日常生活の場に数多くある「女（子ども等々）だから、当然こうでなければならぬ」とされ、実際に人は人びとが持つてている願いや人権が無視され、踏みにじられているという事実から学ぶ、出発すると

の生活の場に数多くある「女（子ども等々）だから、当然こうでなければならぬ」とされ、実際に人は人びとが持つている願いや人権が無視され、踏みにじられている

つまり、仏教がそうした平等の教えであつたはずなのに、親鸞聖人の生涯がそうであつたはずなのに、現実の教団がそうでなかつたという差別の事実・現実から始まつた運動です。まさしく平等というタテマエから出発した運動ではなく、差別の現実から出発した運動です。



寺婦研修会のよう

基幹運動の原点 差別の現実から学ぶ

さて、私たちの教団が進めていく同朋運動も、やはり教団の差別の現実から出発した運動です。それは、釈尊がカースト制度を批判され差別を認められなかつたから、また親鸞聖人のご生涯が被差別

者・被支配者の側に身を置かれた生涯であつたことに学んで始まつた運動でもありません。

今日の同朋運動は、全国の被差別部落の僧侶や門信徒たちが中心となって、それまで教団の内外から出発するなら、（家事を行うことは女性男性という性別には全く関係のないこと）「職業につきたい、働き続けたい」という女性の当然の願いが抑えつけられることが出来ます。

山教区は全国に先駆けて一九四九年同会を設立し運動の先駆けとなりました。

つまり、仏教がそうした平等の教えであつたはずなのに、親鸞聖人の生涯がそうであつたはずなのに、現実の教団がそうでなかつたという差別の事実・現実から始まつた運動です。まさしく平等というタテマエから出発した運動ではなく、差別の現実から出発した運動です。

ですから、私たちは同朋運動を進めようとする時、差別問題を学ぶ時「差別の現実から学び、出発する」ということを寸時として忘れてはなりません。何故ならそれを忘れるとなれば差別が見えなくなるからです。

所長・輪番人事
前備後教区教務所長が和歌山教区
教務所長・鷺森別院輪番に就任。
本山勤務の後、備後教区教務所長などを経て、着任した。

近畿同朋運動推進協議会（事務局＝和歌山教区）では、今年度で創立五十周年を迎えたことから、来る十二月三日、京都本願寺での記念大会を開催することになり、現在開催に向けて準備が行われている。記念大会では先人のご功績を偲び、総御堂において総物故者追悼法要を厳修。引き続き本願寺会館で記念大会を行う。当日はご門主・お裏方がご臨席される。同会の歴史は一九五〇年4月に教団の有志が本部同朋会を設立。各教区においても同朋会支部が設置された。

近畿では一九五四年
【報恩講】
十月 門中淨光師（兵庫教区）
十一月 高木格英師（岐阜教区）
十二月 瀬古 誠師（東海教区）
※二十七日は午後七時から御伝鉢
拝読。続いて通夜布教。

【常例法座】毎月十五・十六日
午後一時半～
【報恩講】
十月二十日 午後一時半～
十一月 濑古 誠師（東海教区）
十二月 初夜法要午前七時～
※四日は逮夜・初夜のみ。六日は
晨朝・逮夜のみ厳修。

【常例法座】
十月二十四日～二十八日
午後一時半～
【報恩講】
十一月二十九日～六日
午後一時半～
十二月四日～六日
午後一時半～
【除夜会】
十一月三十日午後十一時半～

【逝去】
龜井千鶴子 日高組 長覚寺
岡田 芳樹 有田北組
水谷 政子 和歌山組 西覺寺
大畑ユリ子 和歌山東組 西覺寺
前坊守 平成十六年七月九日
前坊守 平成十六年八月十一日
湯川 衆徒 海草組 正光寺
守由子 御坊組 平成十六年八月十八日
守常徳寺 平成十六年九月十四日

近同推・創立50周年 12月3日 本山で記念大会を開催

大会機に差別撤廃に向け再出発

近畿同朋運動推進協議会（事務局＝和歌山教区）では、今年度で創立五十周年を迎えたことから、来る十二月三日、京都本願寺での記念大会を開催することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

近畿同朋運動推進協議会（以下＝近連）が結成される。一九七一年四月本山に同朋運動本部が設置されたことを受けて、一九七七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

六月に同朋会近畿教区連絡協議会（以下＝近連）が結成される。一九九七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

六月に同朋会近畿教区連絡協議会（以下＝近連）が結成される。一九九七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

六月に同朋会近畿教区連絡協議会（以下＝近連）が結成される。一九九七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

六月に同朋会近畿教区連絡協議会（以下＝近連）が結成される。一九九七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

六月に同朋会近畿教区連絡協議会（以下＝近連）が結成される。一九九七年二月に「近連」も「近畿同朋運動推進協議会」（以下＝近同）と名称を変更し、これまでの活動をさらに強力に実践することになり、現在開催に向けて準備が行われている。

これまで近同推は、同朋運動の実践を教団内に呼びかけ、その推移を決意

近同推50周年啓発ポスター
御同朋 生がされて生きて 50年
説教さまと歩む道
生まき
海之日本本願寺
近畿同朋運動推進協議会

少年連盟＝12月11日 子ども報恩講

和歌山教区少年連盟では、来る十二月十一日（土）午前十時半から鷺森別院本堂で毎年恒例となつている「子ども報恩講」を開催する。

和歌山教区少年連盟では、来る十二月十一日（土）午前十時半から鷺森別院本堂で毎年恒例となつている「子ども報恩講」を開催する。

和歌山教区少年連盟では、来る十二月十一日（土）午前十時半から鷺森別院本堂で毎年恒例となつている「子ども報恩講」を開催する。